

# 自治研 センターニュース

1987. 1. 15

No. 51

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610

## 語学講座

### 中国語講座(初級)新規受講者募集

自治研センターでは語学講座の一環として昨年8月より中国語講座(初級)を開講してきました。87年1月末日をもってこの第1期講座は終了しますが、生きた中国を学びたい、との要望が各方面から寄せられているため、当センターでは、新たに中国語講座(初級)を2月から開講することとなりました。講師は第1期と同様、区建英先生(東京大学大学院)にお願いすることができました。

2月開講の初級講座は下記の要領で実施されますので、受講希望者はお早目に当センターまで御連絡ください。

記

期 間 87年2月～7月  
日 時 毎週1回水曜日、午後6時～7時30分  
会 場 市労連会館5階会議室  
受講定員 15名  
受講料 1ヵ月4,000円(6ヵ月分、一括前納)  
講 師 区建英氏(東京大学大学院)  
テキスト 開講時に講師が配布  
受講申込開始 87年1月21日(水)

●受講希望者は、電話にて自治研センター、中国語講座係(TEL 244-7610)まで申し込んでください。

●定員に達した時点で、申込受付は終了します。

## 講演会

### 首都圏通勤電車事情

自治研センター主催の1月定例講演会は、首都圏の通勤電車体系の現状とその問題点を考えます。講師には、最近刊行された『東京圏通勤電車事情大研究』の著者、川島令三氏をお迎えします。川崎をはじめとする神奈川県内の通勤電車網をめぐる問題に関心のある方は是非とも御参集ください。

回 覧

記

日 時 87年1月23日(金)  
会 場 市労連会館5階講堂  
テ ー マ 首都圏通勤電車事情  
——神奈川を中心に考える  
講 師 川島令三氏(鉄道友の会々員)

## 読書会

自治研センター主催の「現代文学を読む」会の1月例会を下記の通り開催致します。どなたも気軽に御参集ください。

記

日 時 87年1月19日(月)午後6時～7時30分  
場 所 自治研センター(川崎市労働会館5階)  
題 材 本 グリーン著『ヒューマン・ファクター』(早川文庫)  
講 師 酒井成美氏(『デルタ』同人)

- 「イギリス情報部に勤めて30年になるカースルは、第六課に属し、年下の同僚デイヴィスと二人で、アフリカから来る情報を処理している。地味で退屈な仕事だ。だがこの課の情報がソ連に漏れていることが判明、まずデイヴィスに上層部の疑いがかかり、確たる証拠もないうちに抹殺された。これを期にカースルは動揺し始める。実は、カースルが犯人だった。七年前、南アでの情報活動の際に世話になった友人への恩義から二重スパイを働くようになったのだ。……フィルビー事件に暗示を受け、巨匠グリーンがその円熟の境地を見事に示した大型スパイ小説」(題材本カバー文より)
- 題材本はセンターで一括購入してありますので、希望者はお申し出ください。

## 研究会

自治研センター主催の研究会を下記の要領で開催致します。1冊の本を手がかりに自由闊達な論議をおこす場です。どなたもふるって御参加ください。

記

日 時 87年1月26日(月)午後6時～7時30分  
場 所 自治研センター(川崎市労働会館5階)  
参 考 本 藤本英夫著『知里真志保の生涯』(新潮社、950円)  
講 師 上村英明氏(アイヌ文化研究家)

- 「日本列島には、もう一つの世界、つまりアイヌの世界があるが、多くの日本史は、それを古い昔のできごととして扱い、現代の問題としてとらえようとしていない。私は、そういう、なかばかくされた世界というか、かげの世界というか、に生きた人びと、それにかかわりをもった人たちの生と死を追いながら、自分もふくめて人間というものを考えてみたかった。(著者)
- 参考本はセンターで購入してありますので、希望者はお早目にお申し込みください。

# 自治研 センターニュース

1987. 2. 20

No. 52

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610

## 英会話講座

### 新規受講生募集

自治研センターでは、姉妹都市ボルチモアからの交換教員2氏の協力を得て、現在4つの英会話講座を主催しております。A、B講座は2月、C、D講座は3月で終了する予定です。しかし、交換教員両氏は本年6月末日まで滞在されますので、あらたに下記2講座を開催します。(但し、ブレンダ・カークパトリック氏については、現在入院中のため講座の開催は見合せます。)

受講希望の方は早急に当センター・英会話係までお申込みください。

記

#### A講座

期 間 87年3月～6月(4カ月間)  
日 時 毎週金曜日、午後6時～7時30分(開講日は3月6日)  
会 場 市労連会館4階会議室(川崎駅下車)  
講 師 キャサリン・ベイカー氏  
テキスト NHKラジオ 続基礎英語他  
受講料 1カ月 4,000円(16,000円、一括納入)  
受講定員 15名

- 英会話初心者のための講座です。テキストは前期からの継承ですが、新規の方も充分に対応できるものです。

#### B講座

期 間 87年4月～6月(3カ月間)  
日 時 毎週木曜日、午後6時～7時30分(開講日は4月2日)  
会 場 市労連会館4階会議室  
講 師 キャサリン・ベイカー氏  
テキスト NHKラジオ 続基礎英語  
受講料 1カ月 4,000円(12,000円、一括納入)  
受講定員 15名

- 本講座は初歩的英会話の訓練を目的とするものです。

#### 英会話講座受講申込方法

- (1) 講座受講希望者は、社団法人川崎地方自治研究センター(TEL244-7610)英会話講座係まで御連絡ください。
- (2) 受講申込受付は、2月25日(水)から開始されます。
- (3) 受付時間は、午前9時～12時、午後1時～5時です。(土曜日は除く)
- (4) 電話申込みにより受講登録された方には当センターより、別途、申込書が送付されますので、必要事項を記入のうえ授業開始日に受講料とともに提出して下さい。

- 受講者が12名に達しない場合、講座は成立しません。また定員になり次第、受付は締め切られます。

## 講演会

### 「売上税」社会的公正

「戦後最大の税制改正」という鳴りものいりの「売上税」が国会に上程されようとしています。「減税」実現のための措置と宣伝されていますが、社会的公正という点からみて、現行の不公正税制を改める内容をもっているとはいえないものです。社会的弱者の負担をさらに重くする傾向もあるようです。

この「売上税」を支える考えはどういうもののでしょうか。私たち市民の税負担はどう変化するのでしょうか。はたして日本の税制は社会的公正の方向へむかうのでしょうか。「売上税」が導入された場合、地方自治体の財政は、どのような影響がおよぶのでしょうか。

今回の講演会は、税制の研究者である佐藤進氏(新潟大学教授)をお迎えして、「売上税」を中心にわが国の税制の問題点についてお話を伺います。

記

日 時 2月27日(金) 午後3時～5時  
会 場 市労連会館5階講堂  
テ ー マ 日本の税制と社会的公正——「売上税」を考える  
講 師 佐藤 進氏(新潟大学教授)

## 研究会

自治研センター主催の研究会を下記の要領で開きます。自由な論議の場ですので、どなたもお気軽に御参集ください。

記

日 時 87年2月23日(月) 午後6時～7時30分  
場 所 自治研センター(川崎市立労働会館5階)  
題 材 本 清水知久著『ベトナム戦争の時代』(有斐閣新書、690円)  
司 会 佐藤・自治研センター研究員  
● 「今も私たちの心の奥底にひそやかに生きている“ベトナム体験”。あの時代、人はベトナム戦争を通して何を想い、何を考えたのか。アメリカ・ベトナム・日本の指導者から民衆まで、多くの人びとの“歴史の証言”から、苦しいけれど希望もあった時代の人びとの生と死、時代の精神を語る。」(本書のカバー文より)  
● 次回の研究会は、3月23日(月)に開催します。参考本は、ギ・ソルマン著『新“自由の時代”』(春秋社、1986年、1,800円)を予定しています。  
● 参考本はセンターで一括購入しておりますので、希望者は早目にお申し込みください。

## 読書会

自治研センター主催の3月読書会が下記の通り開かれます。題材本に関心のある方はふるって御参集ください。

記

日 時 3月16日(月) 午後6時～7時30分  
会 場 自治研センター(川崎市立労働会館5階)  
題 材 本 G. ガルシア・マルケス著『ママ・グランデの葬儀』(集英社文庫、320円)  
講 師 酒井成美氏(『デルタ』同人)  
● 題材本はセンターで一括購入しますので、御希望の方はお申し込みください。  
● 2月読書会は、去る2月16日(月)におこなわれ、中園英助著『地下の楽譜』(徳間文庫)をとりあげました。

回 覧

# 自治研 センターニュース

1987. 3. 5

No. 53

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610

## 英会話講座

### 新規受講生再募集

自治研センター主催の英会話講座昨秋より4講座設置されておりますが、本年2月末をもって2講座が終了し、3月末に他の2講座が終了します。

当センターでは4講座とも6月末まで継続する予定でございましたが、2講座（月曜および水曜クラス）担当のカークパトリック先生が御病気のため、ベイカー先生の講座（木曜および金曜クラス）についてのみ新規受講生募集をおこなっています（「自治研センターニュース」第52号参照）。

このたびカークパトリック先生が健康を回復されましたので月曜クラス、水曜クラスについても新規受講生の募集を受け付けることとなりました。

4講座ともまだ定員に達しておりませんので、受講希望者はふるって自治研センター英会話講座係までお申し込みください。以下に4講座の要領を掲げます。

#### 記

#### A講座

期 間 87年3月～6月（4カ月間）  
日 時 毎週金曜日、午後6時～7時30分（開講日は3月6日）  
会 場 市労連会館4階会議室（川崎駅下車）  
講 師 キャサリン・ベイカー氏  
テキスト NHKラジオ 続基礎英語他  
受講料 1カ月 4,000円（16,000円、一括納入）  
受講定員 15名

- 英会話初心者のための講座です。テキストは前期からの継承ですが、新規の方も充分に対応できるものです。

#### B講座

期 間 87年4月～6月（3カ月間）  
日 時 毎週木曜日、午後6時～7時30分（開講日は4月2日）  
会 場 市労連会館4階会議室  
講 師 キャサリン・ベイカー氏

テキスト NHKラジオ 続基礎英語  
受講料 1カ月 4,000円（12,000円、一括納入）  
受講定員 15名

- 本講座は初歩的英会話の訓練を目的とするものです。

#### C講座

期 間 87年4月～6月（3カ月間）  
日 時 毎週水曜日、午後6時～7時30分（開講日は4月1日）  
会 場 川教組会館2階会議室（南武線・向河原駅下車）  
講 師 ブレンダ・カークパトリック氏  
テキスト Break Through English 1  
受講料 1カ月 4,000円（12,000円、一括納入）  
受講定員 15名

- 本講座は初級よりややすすんだ内容をもつものです。たんに日常的な挨拶や基本文型にとどまらず、そのときどきの話題をめぐって考えるところを英語で表現してみたい、といった方のためのクラスです。

#### D講座

期 間 87年4月～6月（3カ月間）  
日 時 毎週月曜日、午後6時～7時30分（開講日は4月6日）  
会 場 市労連会館4階会議室  
講 師 ブレンダ・カークパトリック氏  
テキスト Beginning American English  
受講料 1カ月 4,000円（12,000円、一括納入）  
受講定員 15名

- この講座は初級者むけの内容です。

#### 英会話講座受講申込方法

- (1) 講座受講希望者は、社団法人川崎地方自治研究センター（TEL 244-7610）英会話講座係まで御連絡ください。
- (2) 受講申込受付は、A、B講座は2月25日（水）から開始されており、C、D講座は3月20日（金）より開始されます。
- (3) 受付時間は、午前9時～12時、午後1時～5時です。（土曜日は除く）
- (4) 電話申込みにより受講登録された方には、当センターより別途申込書が送付されますので、必要事項を記入のうえ、授業開始日に受講料とともに提出して下さい。

- 各講座とも受講者が12名に達しない場合、講座は成立しません。また、定員になり次第受付は締め切られます。

回 覧

# 自治研 センターニュース

1987. 4. 10

No. 54

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610

## 講演会

### 統一地方選挙

80年代から90年代のわが国の地方政治を規定する統一地方選挙が4月12日と26日に実施されます。

川崎市においては、市議会議員、市長、県議会議員、県知事を選出する四重選挙が12日におこなわれます。今回の地方選挙は、政府の税制改革案が一大争点として浮上したのに、地方政治の構想、地方政府の哲学と政策、地方政治における政党配置の問題等をめぐる論議に欠けるところがありました。

しかし今回の地方選挙の結果は、市民が現在と将来の政治にたいしてどのような意識を抱えているかを知るためにひとつの手掛かりをあたえてくれるものと思われま

す。今回は、12日におこなわれる川崎市の4重選挙の結果をふまえて、市民の政治意識の動向について考えてみます。

関心の向きはふるって御参集ください。

記

日時 4月28日(火)午後3時～5時

会場 市労連会館 5階講堂

テーマ 川崎市民の政治選択

——4・12選挙の結果を考える——

講師 牧内良平氏(神奈川新聞論説員)

- なお3月の定例講演会は、去る3月27日に戸田清氏(日本消費者連盟)をお迎えして「わが国の食品公害をめぐって」というお話を伺いました。講演の要約は近いうちに公表されます。

## 研究会・読書会

自治研センターでは、毎月、時局的・全般的テーマを扱う「研究会」と、現代文学の著作をとりあげる「読書会」を主催していますが、今回は2つの会の対象本が一致したために、初めて合同の会合を開くこととなりました。どなたにも親しみやすく入手が確実な対象本ですので、参加者は対象本を読了のうえお気軽に御出席ください。

対象本を入手出来ない方はセンターまでお申し込みください。

記

日時 4月27日(月)午後6時～7時30分

場所 市労連会館 4階会議室

対象本 ガルシア=ヌルケス著『戒厳令下チリ潜入記——ある映画監督の冒険』  
(岩波新書, 黄No.359. ¥480)

講師 酒井成実氏(『デルタ』同人)

野上和裕氏(自治研センター専任研究員)

- 「ヨーロッパ亡命中のチリ反政府派の映画監督ミゲル・リティンは、1985年、変装して戒厳令下の祖国に潜入、『チリに関する全記録』の撮影に成功した。スラム街や大統領府内の模様、武装ゲリラ幹部との地下会見、母や旧友との劇的な再会……。死の危険を遂にくぐりぬけるまでの奇跡の6週間が、ノーベル賞作家によって見事に記録された」(本書カバー文より)。

## 語学講座

自治研センター主催の語学講座は、現在のところ5講座が開設されています。中国語講座(水曜日/区建英先生担当)と英会話講座(月水木金, ベイカー先生およびカークパトリック先生担当)です。

どの講座もほぼ定員近い受講者があり、楽しい雰囲気での学習が続いています。英会話講座は両先生が7月に帰米されるため6月で終了し、7月より新コースを開設する予定です。また中国語講座は7月で終了し、8月より新講座が開講されることになっています。

新規受講希望者は、今後の本ニュースに御注目ください。また当センター(TEL 244-7610)への問い合わせも歓迎されます。

回覧

## 市民税調

昨年来、政府から定期されました「税制改革」案は未曾有の国民的論議を引きおこすことになりました。税制は全市民にかかわるものであるばかりか、あらゆる市民が自らの問題として考えねばならない。社会運営上の重要な要素です。このたび「売上税」をめぐって「川崎市民税調」が開催されましたので、そのアピールを資料としてここに掲載いたします。

### “資料” 『市民税調・川崎シンポジウム』アピール

昨年末、唐突に出された中曽根税制改革案は、多くの疑念・波紋を投げかけています。

こん度の中曽根案には、戦後の税制の抜本的な改革などと言われている割には、その理念、目標、改革の優先順位などの議論があいまいで、しかも公約違反と指摘されるように税制の歪みや不公平の改善をないがしろにしたまま問題の大きい売上税＝間接税の導入を図るなど、とてもこのまま容認できる改革案とはいえません。

こうした中曽根案には野党ばかりか、労働組合、市民団体、それにこれまで自民党を支持していた農業団体、流通団体なども反対の意志を表明しています。

私達も勿論中曽根案の問題点を指摘してきました。とりわけ今回の改正案では売上税と呼ばれている『付加価値税』が導入されれば、収入のある成人だけでなく、すべての国民が納税者になることとなります。それには、政府の財源確保の論理だけでなく、私たち市民の論理から見た政府と税のあり方が議論されなければならないはずで、そのような議論の過程を抜いた中曽根案は今日求められている税制改革のための議論として不十分です。

とはいっても、この度の中曽根税制改革案が、広く市民に対する税の問題を考える契機を創ったことに相違ありません。日本の税制に改革が必要なことは確かです。税の不公平、財政赤字、複雑な税の特別措置、そして高齢化に伴う負担増など、これまでも様々な問題点が指摘されてきました。しかし考えてみれば、私たち市民の視点に立った税のあり方、という議論がこれまではほとんどなかったと言えるでしょう。

『共に生き共に治める』にはどのような税体系が求められるのか。『共に地域社会を形成してゆく』には市民と事業者がどのように負担、拠出していったらよいか。今日の社会状況で『経済的弱者と強者が連帯してゆく』にはどのような政府と税が必要なのか。この際、私たち市民が議論し考えなければならない点が多く残されています。そして市民社会

の論理に立つ税のあり方を探る好機です。

さもないと、明治以来、初めて市民が税のあり方にコミットするせっかくの機会を逸し、たんなる税負担のなすり合いの議論になり、税をめぐって競争・競合の関係が強められてしまいます。

本日、川崎において市民税調に参会した私たちは、それぞれの立場から中曽根税制改革案の問題点を論議して共通の認識を得ることができました。私たちは社会的公正をもとめる市民の立場から中曽根税制改革案に疑問をもっています。

税制改革は私たちすべての市民の生活の未来に直接的な影響をおよぼすものであり、広汎な議論を経たうえで国民的合意のもとに実現されねばなりません。中曽根税制改革案は、現行の不公平税制をなんら改革するものではなく、かえって多くの市民の不安と疑問をよびおこしています。私たちはこの中曽根税制改革の性急な反民主主義的導入を憂慮するものであり、税制改革法案の廃案をもとめるとともに、民主主義と社会的公正に立った税制をめざして今後とも市民のあいだでの討論をくりひろげることをここに表明します。

1987年3月25日

市民税調・川崎シンポジウム参加者一同

# 自治研 センターニュース

1987. 5. 12

No. 55

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610

## 講演会

統一地方選挙が終わって、川崎市の政治情勢は、以前のおちつきを取り戻しました。しかし、国の政治の行方は、ますます不透明感をつよめています。

皆さんご承知のように、原衆議院議長の調停により、予算成立のメドがついたことで、国会の紛糾にも一応の解決がつかしました。税制改革法案については、別にと野党協議機関を設置し、そこで処理されることになりました。この調停案については、「これで売上税は事実上廃案になった。中曽根内閣の退陣も近いかもしれない。」とさえいわれました。

ところが、中曽根首相は、訪米を成功させたことで、「未だ命運を尽きず」という自信を深めています。首相が大型間接税導入に執念を持っているので、野党の側でも、「中曽根流税制改革」を阻止できたとは楽観出来なくなっています。与野党の対決は、これからが本番なのかも知れません。

今月は、国政の動向について、最新の情報をもとに考えてみます。関心の向きはふらふらと御出席ください。

記

日時 5月19日(火) 午後3時～5時

会場 市労連会館 5階講堂

講師 早房長治(はやぶさ・ながはる)氏(朝日新聞編集委員)

テーマ 統一地方選挙と税制改革のゆくえ

- なお早房氏は、最近、『異議あり、税制改革』(朝日新聞社、1,000円)という本を出版されました。好著です。税制改革に興味のある方に、お薦めします。

## 研究会・読書会

自治研センターでは、毎月、時局的・全般的なテーマを扱う「研究会」と、現代文学の著作をとりあげる「読書会」を主催しています。4月に続いて今月も、2つの会で読む本が一致したために、合同の会合を開くことになりました。対象となっている本は、決してこむずかしいものではありません。今まで参加されたことのなかった方も、お気軽に御出席ください。

なお、対象本を入手出来ない方は、センターまでお申し込み下さい。

記

日時 5月25日(月) 午後6時～7時30分

場所 市労連会館 4階会議室

対象本 田中康夫著『ファディッシュ考現学』(朝日新聞社、880円)

講師 酒井成実氏(『デルタ』同人)

## 回覧

司会 野上和裕(自治研センター専任研究員)

- 「ルイヴィトンのバックを持って青山通りを散歩することと、岩波書店の本を持って上野の森を散歩することとの間には、優劣をつけることができない。」こうした考えを一貫して主張し続けた田中康夫氏による、「甘い毒を含んだ」新しい日本論。

## 購入図書紹介

自治研センターは、毎月、いろいろな図書・雑誌を蒐集しています。購入する図書の範囲は、川崎市や地方自治に関するものだけではなく、広く、労働・政治・経済・社会・国際関係に及んでいます。これらの書籍は、一般に貸し出していますので、御利用下さい。

最近センターが購入した本の中から1冊、私(専任研究員の野上)の独断と偏見で、皆様に御紹介いたします。今月は、『つきあい方の科学』という本を選びました。

ロバート・アクセルロッド著 松田裕之訳

『つきあい方の科学。バクテリアから国際関係まで』

(CBS出版、1987年、2,200円)

- 「米ソの軍拡競争は避けられない。このことは、『ゲームの理論』によって、数学的に証明される。」こんなことを、大学1年のときの政治学の授業で習って、がっかりしました。

「軍拡競争よりも、相互に軍縮した方がいいにきまっている。しかし、もし敵国が軍縮をするなら、自国が軍事力で敵国に優位に立つチャンスだ。もし敵国が軍備を拡大するなら、自国も軍拡に走らなくては危険だ。結局、敵国が軍縮をしても軍拡しても、自国の軍備を拡大した方が有利だ。このように、米ソが自国の利益を第一に考えている限り、際限ない軍拡競争は避けられない。」こうした考え方にたいして、『ゲームの理論』は、数学的な裏付けとなっていました。軍拡競争は、「合理的な」行動の結果というわけです。

ところが、本当に「合理的な」行動をすれば、軍縮は出来ないのか。そういう疑問の声が、最近、大きくなってきました。その疑問に答えるため、専門家の間で、コンピューターを駆使した大掛かりなシミュレーション(図上演習)大会が開かれました。その結果は予想外のものでした。『しっぺ返し』—①相手国が軍縮を求めたときは、自国からは決して裏切らない。②相手国が軍備拡大を行ったときに限り、自国も軍備を拡大する。③相手が軍縮に向かえば、すぐに自国も協力する。—という行動をとった研究者が優勝したからです。互惠主義にもとづく行動がもっとも「合理的」だったのです。

「協調することがもっとも『合理的』という、机上の空論のような結果について、大会の主催者自身が、解説したのが、この『つきあい方の科学』(原書の題は「協調関係の進展」)です。この本は、「科学的」な裏付けを持っているだけに、理念を振り回してお説教したり、理想とほど遠いのを大袈裟に嘆いたりはありません。あくまでも、著者は、現実にもとづいた議論をしています。といっても、決して難解な本でもなければ、無味乾燥の本でもありません。著者は、この本の中で、コンピューター大会の結果とともに、「バクテリアから国際関係まで」の豊富な実例を挙げて、コンピューターが怖い人にも、数学が苦手な人にも、読みやすく・面白く書いています。「戦争はいやだが、戦争反対の人の話を聞いていると疲れる。」とか、「最先端の学問をしたいが、肩が凝るようなものはいやだ。」という人にぴったりです。

# 自治研 センターニュース

1987. 6. 1

No. 56

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610

## E. ジェルピ氏講演会

パリのユネスコ本部で生涯教育の責任者を勤められているエットーレ・ジェルピさんが、日本にお見えになります。

ジェルピさんは、1933年にイタリアのミラノで生まれ、ミラノ大学を卒業後、アメリカ合衆国に渡り、コロンビア大学で成人教育修士・法学博士等の学位を取得されています。その後、イタリアに帰国され、1960年からミラノの総合制中等学校での教師をされたかわら、ナポリでソーシャルワーカーをするなど、南部からの出稼ぎ労働者に対する教育・文化活動を行われました。成人教育者・教育行政機関等の要員養成の政府機関でも、その要職に従事なされてきました。さらに、イタリア総同盟（労働組合）と協力して、専門的な教員の再訓練に関する特別委員会を設置され、1970年から2年間は、その会長を勤められていました。国際的にも、1971年に、ユネスコのコンサルタントになられ、72年からは、パリ本部の生涯教育部門の責任者に就任され、現在に至っております。

ジェルピさんの活躍は、ヨーロッパに限られず、ラテン・アメリカなどの第三世界にも及んで、1980年には、ユネスコ主催で生産労働と教育を促進するための国際的な専門家会議を開かれました。日本にも、1982年に来られ、「生涯教育」に関心を持つ多くの人々に大きな影響を与えられました。その時の来日を記念して、ジェルピさんの主著『生涯教育—抑圧と解放の弁証法』が、日本においても、翻訳・出版されています。（前平訳、東京創元社、1500円）

今回の来日は、日本社会教育学会等の要請により実現したもので、予定では、6月の12日から19日までのあいだ、滞在されます。川崎市でも、当センターの理事長岩淵英之を委員長とする「E. ジェルピ氏川崎市招請実行委員会」が結成され、来る15日に、川崎市で講演をしていただくはこびとなりました。

### 記

日時 6月15日(月) 午後2時～5時

会場 会館とどろき 2階けやき (中原区宮内730-5 TEL 733-3333. 武蔵小杉駅よりバス「とどろきグランド入口」下車)

テーマ 生涯教育とは何か

回覧

備考 入場無料

なお、ジェルピ氏の講演の前に、日本の専門家による、氏の経歴・主張と日本における生涯教育の説明を行う予定です。

## 研究会・読書会

自治研センターでは、毎月、時局的・全般的なテーマを扱う「研究会」と、現代文学の著作をとりあげる「読書会」を主催しています。対象となっている本は、決してこむずかしいものではありません。今まで参加されたことのなかった方も、お気軽に御出席ください。

なお、対象本を入手出来ない方は、センターまでお申し込み下さい。

### 記

#### 読書会

日時 6月22日(月) 午後6時～7時30分

場所 市労連会館 5階会議室

対象本 小関智弘(こせき・ともひろ)著『大森界限職人往来』(朝日文庫、400円)

講師 酒井成実氏(『デルタ』同人)

司会 野上和裕(自治研センター専任研究員)

- 小関氏は、1933年、東京生まれ。都立大学付属工業高校卒業。旋盤工として町工場に勤務するかわら、作品を発表する。昭和56年、本書により第8回日本ノンフィクション賞を受賞する。「羽田浦地図」「祀る町」で芥川賞、「錆色の町」「地の息」で直木賞の候補になっている。

#### 研究会

日時 6月29日(月) 午後6時～7時30分

場所 市労連会館 5階会議室

対象本 宮崎正弘(みやざき・まさひろ)著『ユダヤにこだわると世界が見えなくなる』(二見書房、750円)

講師 峰岸是雄氏(川崎市企画調整局)

司会 野上和裕(自治研センター専任研究員)

- 「円高不況」という現在の日本の苦しみは「ユダヤの陰謀の結果、仕組まれた罠であり、1990年に「大恐慌」が演出され、日本の産業は空洞化して消滅してしまふ—という妄論が巷間を闊歩している。

冗談もこうなるとタチが悪い。これを信じてしまうと企業もビジネスに失敗するし、国家は外交の基本を誤る怖れがある。危険このうえない。

本書は、このようなデマを反証していきながら、実は現代の深層を分析するためのデータを提供するものである。1990年代の日本はこうなる。(裏表紙より)

(6月定例学習会のお知らせは裏面にあります)



## 講演会

今年産の生産者米価（政府買入れ価格）が引き下げられる見通しです。引き下げは1956年以来31年ぶりです。もっとも、56年の下げ幅は平均で0.9%と横ばいでしたので、事実上は戦後初の引き下げであるといわれています。米価の本格的引き下げは、『米価は下がらない』という『コメ神話』を崩壊させるかもしれません。とすれば、これは国内農家に対する手厚い保護を続けてきた戦後農政の修正をも意味することになるでしょう。

農林水産省はすでに今年産の生産者米価を引き下げる方針を決め、いまはその下げ幅を検討しています。7月に開かれる米価審議会では『米価を一発で決めたい』（同省首脳）意向のようです。下げ幅は5%程度が見込まれています。そうした農水省の動きにたいして、今年は農業団体さえおとなしく、米価決定に影響力を持つ全国農協中央会（全中）は5月中旬、米価引き下げを容認する方針を打ち出しました。米価を巡る情勢は、引き下げに大きく傾いています。（朝日ジャーナル1987. 5. 29参照）

引き下げ必至の形勢は、この1年間の推移のなかで生まれてきたようです。昨年は米審が農水省の諮問どおり、3.8%引き下げを答申したものの、その後、農協を中心とした猛烈な引き下げ反対運動が起き、自民党内の調整で据え置きにされました。しかし、米価据え置きは、世論の強い反発を買うことになりました。経済界や都市消費者から農政・農協批判が一気に噴き出したのです。例えば、1986年8月9日付け朝日新聞は、「政府・自民党が生産者米価の据え置きを決定したことは、生産者団体が騒げば政府が手厚く面倒を見るという日本農業の通弊を象徴的に国民に示した。従来算定方式で試算すれば6.6%の引き下げになるのを、農林水産省は3.8%にまで圧縮して米価審議会に諮問、これをさらにゼロにした。一見、稲作や生産者を保護しているように見えても、高価格で生産を支えてきたことが、日本のコメを極めて割高の、品質的にも劣った商品にしてしまった。そして、コメの高価格は消費者や納税者の負担で支えられているはずなのに、政府・自民党・農協組織の調整の中では、重税や消費者の家計のことは全く無視されている。」（長谷川熙編集委員）と述べています。

それに加えて、世論という『内圧』に便乗する形で、アメリカからのコメ市場開放要求という『外圧』が急激に強まりました。『外圧』に弱い日本の自民党政府の体質からいっても、コメ・農業の過剰保護政策の見直しは避けられそうにありません。それだけでなく、かつては農民の心情と結び付いていた保守主義のなかにも、コメの輸入自由化を主張する人達が現れています。コメは、日米貿易摩擦の上でも、もはや『聖域』ではなくなったのです。こうした国内外の世論によって、この1年の間で「米価の決定方式を、否、農政全体を、いままでどおりのやり方で続けていくことは、絶対に不可能である」ことが、はっきりしたのです。農協さえ引き下げ止むなしと考えているのはこのためです。

ところが、86年産生産者米価の据え置きに、「米価据え置きは、生産資材、賃金等が上昇する中で実質的な引き下げであり、財政事情優先の『行革米価』だ。減反対策の責任を農業団体等に押しつける不当な内容で断じて容認できない。」と主張した政党があります。社会党です（共産党も同趣旨の談話を発表。公明党は米価を引き上げなかったことを遺憾としながらも、一定の評価。民社党は、据え置きを評価しながらも、値下げが行われなかったことを批判）。

今年も、米価の季節がやってきました。読者の諸兄は、コメ・農業について、どうお考えでしょうか。「コメは日本人の主食であるから、安定供給のためには政府の補助が必要だ。逆ザヤ維持の考えは、少数派であっても正論だ」と考える方もいらっしゃるでしょう。「コメだけ特別扱いすることは、やはり時代遅れの感が否めない。農業の生産性向上のためにも、食管制度を大幅に見直さねばならない」と見る方も多いでしょう。ただし、「米価は農民の賃金だ」とか、「コメの輸入を自由化すれば、値段は半分以下になる。」とか、決まり文句を繰り返すだけでは、問題の理解にも解決にも繋がりません。いずれの立場を支持するにせよ、日本の農業とコメの現状の正確な認識と将来の展望とを踏まえることが必要でしょう。

今月は、「右」のなかでも「左」のなかでも、意見が正に「真っ二つ」に分かれているコメ・農業の問題を取り上げることにしました。関心の向きは、ふるって御出席ください。

### 記

日時 6月16日(火) 午後3時～5時

会場 市労連会館 5階講堂

テーマ 日本のコメと農業をどう変えるか

- 講師の藤岡氏の経歴は、「1931年、京都市生まれ。1954年、京都大学経済学部卒業後、毎日新聞社に入り、約20年間、経済部記者として主に地域開発・都市問題・土地問題・農政などを担当。エコノミスト編集長、事業本部長、出版局次長などを経て、1986年、毎日新聞社を退社。現在、農政ジャーナリスト」です。

なお、藤岡氏は、最近、増田俊二（ますだ・しゅんじ）氏（東京新聞・中日新聞編集委員兼経済部次長）との共著『日本のコメと農業をどう変えるか。日本経済の課題＝“コメ改革”のための緊急提言』（日本実業出版社、1600円）という本を出版されました。とても読みやすく書かれた好著です。日本のコメ・農業問題を、もっと詳しく勉強したいという方に、お薦めいたします。



# 自治研 センターニュース

1987. 7. 16

No. 57

発行責任者 深堀義孝  
川崎地方自治研究センター  
電話 044 (244) 7610

## 学 習 会

日本経済は、今、大きな転換期を迎えています。60年代の高度経済成長を支えて来た「重厚長大」の基幹産業は、生産の縮小を迫られています。それに代わって、第三次産業、通信・情報産業が急速に成長しています。川崎市は、この産業転換のまさに中心に立っています。すでに新聞紙上で盛んに報じられているように、日本鋼管京浜製鉄所は、技能系作業員7千4百人を4千5百人に削減する計画を発表しています。他方、川崎市には、日本電気・富士通などの先端産業も集まっており、行政としても、「マイコン・シティ」構想や、「インテリジェント・ビル」計画などを推進しています。川崎市は、日本産業の構造転換の縮図となっています。

自治研センターの今月の学習会は、川崎市における産業構造の転換を扱うことにしました。講師にお招きした諸先生は、川崎市について多角的な共同研究をされてこられ、その成果を『重化学工業都市の構造分析』という本に纏められたばかりです。川崎市の産業転換についてお話頂くのに、もっともふさわしいかたがたといえます。今回は特に、川崎市の現在・将来について、経済学と社会学との二つの異なった視点からお話ししていただけることになりました。テーマに関心をもつ多くの方々の参加を呼びかけます。

記

日 時 7月24日(金)午後3時～5時  
会 場 市労連会館5階講堂  
テーマ 川崎市における産業構造転換について  
講 師 島崎稔(しまざき・みのる)氏 中央大学文学部教授  
島崎美代子(しまざき・みよこ)氏 日本福祉大学経済学部教授  
大野晃(おおの・あきら)氏 高知大学人文学部教授

なお、講師の先生方を中心とする共同研究の本が当センターの図書室にあります。

島崎稔・安原茂編『重化学工業都市の構造分析』東京大学出版会、1987年。

14,800円

この本は本文969頁の大著です。川崎市について、経済・労働・社会・福祉・政治等の様々な角度から分析を加えています。川崎市を本来の意味で「学問的に」扱った最初の研究書です。当センターでは図書の貸し出しもしておりますので、興味を持たれた向きは御利用下さい。

## 読 書 会

当センターでは、毎月、現代文学の読書会をおこなっております。今月は、今話題の安部譲二さんの出世作『塀の中の懲りない面々』をとり上げます。どなたも対象となってい

## 回 覧

る本をお読みのうえ、御気軽に御出席下さい。

なお、本をまだ購入されていないかた、本屋さんでみつけられなかったかた(余りないと思います)、安く買われたいかたは、当センターへ御連絡下さい。一割引にて、お分け致します。

記

日 時 7月20日(月)  
場 所 市労連会館5階会議室  
著 者 安部譲二(あべ・じょうじ)氏  
題 名 塀の中の懲りない面々  
出版社 文芸春秋社  
定 価 1,000円

「安部譲二さんは喧嘩がむやみに強かつた。強すぎて、刑務所にはいつた。それがキツカケで原稿用紙に字を書くという道楽を覚え、とうとう物騒な渡世をよして、わたしの同業者になつた。向うの業界のために惜しむべく、こつちの業界のために喜ぶべし。

というのは、この元ヤクザは文章を書かせてもなかなか腕が立つからだ。喧嘩ほどではないにしても。刑務所という秘境、懲役囚という雪男たちを、こんなに生き生きとユーモアたつぷりに描いた本は、ほかにないはずである。」(丸谷才一)(オビより)

## 研 究 会

現代の思想・政治・経済・etcを扱う研究会の今月のテーマは、日米経済摩擦です。といっても、議論に参加するために、いわゆる国際経済の理論を知っていなければならないわけではありません。日本とアメリカにおいて、それぞれ貿易交渉の方針を決定するまでの、様々な団体・政治家・官僚等の間で起こる対立や、日米の交渉当局者の間に生じる意思疎通の失敗(パーセプション・ギャップ)などをテーマにする予定だからです。もう少しやさしい言葉でいえば、アメリカとの交渉の際に新聞紙上をにぎわす外務省や大蔵省と通産省の間で権限争いや、アメリカの政治家の発言の意図を誤解して日本の政治家がトンチンカンなことをすることなどを話題とします。みんなでワイワイと話し合ひましょう。どなたも、床屋政談をするつもりで、奮ってご参加下さい。

なお、対象とする本については、読書会と同じく、当センターでもお分け致します(一割引で)。

記

日 時 7月27日(月)  
場 所 市労連会館5階会議室  
著 者 船橋洋一(ふなばし・よういち)氏  
題 名 日米経済摩擦 —その舞台裏—  
出版社 岩波書店(岩波新書)  
定 価 480円

「日増しに激化の一途をたどる日米経済摩擦。その陰に、どのような経済的利害と政治的思惑が錯綜しているのか。日米の政治家・官僚・経済人に対して精力的に取材し、両国の政策決定プロセスを明るみに出すとともに、自動車・コメ・通貨などをめぐる摩擦の構造を解剖する。「国益」のベールを剥ぐ、朝日新聞前ワシントン特派員による生々しい報告。」(カバーより)

## 新着図書

当センターでは、毎月、様々な雑誌・図書を購入しております。その蒐集の範囲は、地方自治に限らず、経済・福祉・海外事情にも及んでおります。これらの図書は、一般に貸し出しておりますので、御気軽に御利用下さい。

今月は、6月から7月10日までに当センターが受け入れた図書を紹介いたします。この他にも、たくさんのお本がありますが、詳細は当センターまでお問い合わせ下さい。

学習会関係図書（ ）内は開催月

藤岡幹恭・増田俊二 『日本のコメと農業をどう変えるか』 日本実業出版 1987年(6月)

島崎稔・安原茂編 『重化学工業都市の構造分析』 東大出版会 1987年(7月)

研究会対象本（ ）内は開催月

宮崎正弘 『ユダヤにこだわると世界が見えなくなる』 二見書房 1987年(6月)

船橋洋一 『日米経済摩擦—その舞台裏—』 岩波新書 1987年(7月)

読書会対象本（ ）内は開催月

小関智弘 『大森界限職人往来』 朝日文庫 1984年(6月)

安部譲二 『塀の中の懲りない面々』 文芸春秋 1986年(7月)

その他

鳴海正泰 『転換期の市民自治 人間サイズの都市づくり』 日本経済評論社 1987年

五十嵐富英 『自立する地方』 ぎょうせい 1987年

宮元義雄 『地方自治体の監査委員—監査の着眼点と運営の指標—』 学陽書房 1984年

宮本憲一編 『地方財政の国際比較』 勁草書房 1986年

自治省編 『地方財政白書 昭和62年度版』 大蔵省印刷局 1987年

丸山高満 『セミナー 地域政策と地方自治』 良書普及会 1987年

田中和夫 『はばたけ地方議会—その未来像—』 ぎょうせい 1987年

井下田猛 『現代地方議会論』 内田老鶴圃 1986年

日本弁護士連合会 『地方自治体の環境アセスメントの運用と実際—住民参加を中心として—』 武蔵野書房 1985年

升味準之輔 『現代政治』 上下 東大出版会 1985年

福岡政行・青木一能 『世界の政治システム』 芦書房 1987年

千葉勇夫 『行政指導の研究』 法律文化社 1987年

松沢浩一 『議会法』 ぎょうせい 1987年

佐高信 『日本官僚白書』 講談社 1986年

伊藤大一 『現代日本官僚制の分析』 東大出版会 1980年

辻清明 『新版 日本官僚制の研究』 東大出版会 1969年

村松岐夫 『戦後日本官僚制の研究』 東洋経済新報社 1981年

村松岐夫・伊藤光利・辻中豊 『戦後日本の圧力団体』 東洋経済新報社 1986年

猪口孝・岩井奉信 『「族議員」の研究。自民党政権を牛耳る主役たち』 日本経済新聞社 1987年

田川誠一 『自民党よ、驕るなかれ』 講談社 1987年

板垣英憲 『<族>の研究 政・官・財を牛耳る政界実力者集団の群像』 経済界 1987年

湯浅博 『自民党「政調」と霞ヶ関 国会「議員族」』 教育社 1986年

高島通敏 『地方の王国』 潮出版 1986年

有田芳生 『保守の冒険』 白石書店 1987年

牧太郎 『永田町の上流家族』 かんき出版 1987年

岡田春夫 『国会爆弾男 オカッパル一代記』 行研 1987年

早川和男 『“狂乱”地価への提言』 岩波書店 1987年

国土庁編 『昭和62年度版 国土利用白書—土地問題の現状と課題—』 大蔵省印刷局 1987年

志村嘉一郎 『土地信託 急成長する「新財産保全法」のすべて』 教育社 1987年

竹内宏・町田洋次・木内嶋 『円高不況 激変する日本経済新地図』 有斐閣 1987年

『神奈川の中堅150社』 日本経済新聞社 1987年

山崎充 『甦るか、地域経済』 日本経済新聞社 1987年

成田孝三 『大都市衰退地区の再生』 大明堂 1987年

朝日新聞経済部 『食糧』 朝日文庫 1986年

立花隆 『農協』 朝日文庫 1984年

速水佑治郎 『農業経済論』 岩波書店 1985年

大島清 『食糧と農業を考える』 岩波新書 1981年

今村奈良臣 『補助金と農業・農村』 家の光協会 1978年

長谷川熙 『コメ国家黒書 国民はだまされていないか』 朝日新聞社 1984年

山田俊男 『日本農政の実態 食糧安全保障を求めて』 教育社 1985年

W. P. フトキンス 『協同組合原則をどう生かすか』 家の光協会 1987年

小寺利夫 『インテリジェント・ビルとは何か 拡がる情報ネットワークとS T S市場』 有斐閣 1987年

坂村健 『TRONからの発想』 岩波書店 1987年

大脇雅子 『均等法時代を生きる』 有斐閣 1987年

篠原一・牧疋名 『地域からの教育改革』 総合労働研究所 1987年

川崎市立小学校学校劇研究会 『教室から生まれた川崎の学校劇集』 1987年

大阪ボランティア協会 『変革期の福祉とボランティア』 ミネルヴァ書房 1987年

大熊一夫 『精神病棟』 朝日文庫 1981年

大熊一夫 『精神病院の話—この国に生まれたるの不幸—』 晩声社 1987年

読売新聞社横浜支局編 『神奈川のお医者さん』 かまくら春秋社 1987年

C. F. アルジャー 『地域からの国際化 国家関係論を越えて』 日本評論社 1987年

渡辺武達 『市民社会のパラダイム』 市民文化社 1987年

『海外出張ハンドブック 地方公務員・議員用』 第一法規 1982年

外務省監修『海外安全ハンドブック』 トラベルジャーナル社 1987年

ギェンター・ヴァルラフ 『最底辺 GANZ UNTEN. ドイツ人に変身して見た祖国 西ドイツ』 岩波書店 1987年

T. R. リード 『誰も知らないアメリカ議会 大統領・議員・利益団体』 東洋経済新報社 1987年

藤村信 『パンと夢と三色旗と フランス左翼の実験』 岩波書店 1987年

D. C. ローフォット編著 『情報公開と行政秘密—先進諸国の動向—』 早稲田大学出版部 1982年

福田豊編著 『ヨーロッパ革新運動の旅』 ありえず 1981年

キンケイド 『イギリスにおける貧困と平等—社会保障と税制の研究—』 光生館 1987年

西尾勝 『権力と参加』 東大出版会 1975年

# 自治研 センターニュース

1987. 8. 10

No. 58

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610

## 中国語講座

### 新規受講者募集

自治研センターでは、生きた外国語を学びたいという方のために、ネイティブ・スピーカーによる英会話講座と中国語講座とを開講しております。中国語については、昨年8月より、区建英先生（東京大学大学院）にお願いして、初級者むけの講座を開講してきました。この度、87年7月末で、第2期の講座を好評のうちに終了することが出来ましたが、「引き続いて中国語を学びたい」・「新たに中国語を学びたい」という各方面の御要望にお応えして、9月から第3期の中国語の講座を始めることになりました。下記の要領で募集致しますので、受講希望者はお早めに当センターまで御連絡下さい。

記

期 間 87年9月～88年2月（6カ月間）

日 時 毎週水曜日、午後6時～7時30分（開講日は9月2日）

会 場 市労連会館4階会議室

講 師 区建英氏（東京大学大学院）

テキスト 開講時に配布

受講定員 15名

受講料 1カ月 4千円（6カ月分一括前納）但し、テキスト代を含む

受講申込開始 87年8月21日

● 受講希望者は、電話で自治研センター・中国語講座係（TEL 244-7610）まで、お申し込み下さい。

● 定員に達した時点で、申込受付は終了致します。

なお、英会話講座についても再開を検討していますが、詳細は追ってお知らせ致します。

## 読書会・研究会

8月は、読書会・研究会をお休み致します。9月から、下記の要領で再開致しますので、どなたも気軽に御参加下さい。

記

### 読書会

日 時 9月21日(月) 午後6時～7時30分

場 所 市労連会館5階会議室

対象として取り上げる本

ウィリアム・ヒューツバーグ著『墮ちる天使』ハヤカワ文庫NV (245)

夏目漱石他著『文豪ナンセンス小説選』河出文庫

● 9月は、2冊取り上げます。一冊目は、今話題のオカルト+ミステリー映画『エンゼル・ハート』の原作です。二冊目は、日本の作家の書いた怪奇短編のアンソロジーです。暑い夏の読書にもぴったりの本です。

### 研究会

日 時 9月28日(月) 午後6時～7時30分

場 所 市労連会館5階会議室

参考にする本 高橋紘著『象徴天皇』岩波新書372

● なお、上記の3冊については、当センターで一括購入しておりますので、まだお求めになっていらっしゃらないかたは、お申し出ください。

回 覧

# 自治研 センターニュース

1987. 9. 11

No. 59

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610

## 英会話講座

### 新規受講生募集

当センターでは、3年前より、英会話の講座を開催しています。

講師には、例年、姉妹都市ボルチモア市（米国メリーランド州）からの交換教員の方に依頼しております。今年も、ブランチ・モーガン（Branch Morgan Jr.）先生とジョン・ホフマン（John E. Huffman）先生のご協力を頂くことになりました。

授業は週1回おこないます。4講座開講いたしますので、御自分の英語のレベルに合わせてお選び下さい。今回は、これまでの英会話講座の経験から、全く英会話の経験のない方でも付いて行けるように、「初級」の下に「入門」講座を開催することになりました。「This is a pen. ぐらいしか話せないわ。」と尻込みする必要は有りません。気軽な気持ちで受講下さい。以下に4講座の要領を掲げます。

#### 記

##### 「入門」講座

期 間 1987年10月～1988年3月（開講日10月6日）  
日 時 毎週火曜日、午後6時～7時30分  
会 場 市労連会館 4階会議室（川崎駅下車）  
講 師 ブランチ・モーガン氏  
テキスト 未定・開講日に配布  
受講料 1ヵ月4千円（24,000円一括納入）  
受講定員 15名

● 全く英語の経験のないかたでも充分付いていけるものです。

##### 「初級」講座①

期 間 1987年10月～1988年3月（開講日10月8日）  
日 時 毎週木曜日、午後6時～7時30分  
会 場 市労連会館 4階会議室（川崎駅下車）  
講 師 ブランチ・モーガン氏  
テキスト 未定・開講日に配布  
受講料 1ヵ月4千円（24,000円一括納入）  
受講定員 15名

● 英会話の初心者向けの内容です。

##### 「初級」講座②

期 間 1987年10月～1988年3月（開講日10月6日）  
日 時 毎週火曜日、午後6時～7時30分  
会 場 市労連会館 5階会議室（川崎駅下車）  
講 師 ジョン・ホフマン氏  
テキスト 未定・開講日に配布  
受講料 1ヵ月4千円（24,000円一括納入）  
受講定員 15名

● 「初級」A講座と同じレベルです。

##### 「中級」講座

期 間 1987年10月～1988年3月（開講日10月8日）  
日 時 毎週木曜日、午後6時～7時30分  
会 場 市労連会館 5階会議室（川崎駅下車）  
講 師 ジョン・ホフマン氏  
テキスト 未定・開講日に配布  
受講料 1ヵ月4千円（24,000円一括納入）  
受講定員 15名

● 日常会話から一段進んだ内容の会話の習得を目指します。

### 英会話講座受講申込方法

- (1) 講座受講希望者は、社団法人川崎地方自治研究センター（TEL 244-7610）英会話講座係まで御連絡ください。
- (2) 受講申込受付は、9月24日(木)より開始されます。
- (3) 受付時間は、午前9時～12時、午後1時～5時です。(土曜日は除く)
- (4) 電話申込みにより受講登録された方には、当センターより別途申込書が送付されますので、必要事項を記入のうえ、受講開始日に受講料とともに提出して下さい。

- 各講座とも受講者が12名に達しない場合、講座は成立しません。また、定員になり次第受付は締め切られます。

### 学 習 会

今川崎では21世紀の高度情報化社会に向けて様々なプロジェクトが進行しています。「キャンパス都市川崎」「かわさきインテリジェントシティ計画」「川崎テクノピア計画」「かながわサイエンスパーク計画」「テレトピア計画」「ハイビジョン都市構想」など川崎市が主体となっている計画が目白押しです。

今月の学習会は、そうしたカタカナだらけのプロジェクトを取り上げることにしました。入場は無料ですので奮って御参加下さい。

### 記

講 師 森 新太郎氏（川崎市企画調整局文化室主幹）  
テ ー マ ハイテク都市川崎を考える  
日 時 9月30日(水) 午後3時～5時  
会 場 市労連会館 5階講堂（川崎駅下車）

### 読 書 会

既にお知らせした通り、9月の読書会は次の通り実施致します。

### 記

日 時 9月21日(月) 午後6時～7時30分  
会 場 市労連会館 5階会議室（川崎駅下車）  
テ ー マ

①ウィリアム・ヒョーツバーグ著『墮ちる天使』ハヤカワ文庫 NV(245) (520円)

●「タイムズ・スクエアにハワイ州誕生の報道が流れる頃、私立探偵ハリー・エンジェルはソフレなる男の依頼を受けた。かつて自分が後援した戦前の名歌手フェイヴァリットの行方を突き止めてくれというのだ。さほど困難な調査とも思えない。快諾したエンジェルは、しかし、予想外の事態に直面する—占星術師、ヴェドゥー教の女や信者、悪魔崇拝者と、一様に怪しげな関係者、そして彼らの間に相次ぐ凄惨な殺人。果たして背後に潜む悪夢のごとき真相とは……？ 正統派ハードボイルドとオカルトの魅力が融合されたアメリカ探偵作家クラブ賞候補作品！」（裏表紙より）

②夏目漱石他著『文豪ナンセンス小説選』河出文庫 (480円)

●夏目漱石の「夢十夜」からその『第二夜』、内田百閒の「北溟」、稲垣足穂の「星を売る店」、中島敦の「文字禍」など幻想とファンタジーに満ちた小説を集めたアンソロジーです。

### 研 究 会

日 時 9月28日(月) 午後6時～7時30分  
会 場 市労連会館 5階会議室（川崎駅下車）  
テ ー マ 高橋 紘著『象徴天皇』岩波新書372 (480円)

●「『松の緑の大内山』とたたえられる皇居。そこにはどんな人たちが住み、どのように働き、そして何が行われているのだろうか。宮内庁記者会会員の若者が、天皇制をめぐる敗戦前後の興味深いエピソードを紹介しながら象徴天皇誕生の経緯をさぐった上で、豊富な取材体験をもとに、皇室の現在と、そのあり方をめぐっての議論の問題点を報告する。」（カバーより）

# 自治研 センターニュース

1987. 10. 30

No. 60

発行責任者 深堀義孝  
川崎地方自治研究センター  
電話 044 (244) 7610

## 読書会

自治研センター主催の読書会を下記の通り開催致します。この読書会は、関心のあるどなたにも開かれたものです。題材本は講師・酒井氏が選定し、予め参加希望者に渡るようセンターで一括入手しています。また題材本はどなたにも親しみやすく、価格も手頃なものにするよう配慮されております。

多くの方の参加を希望致します。

記

日時 11月16日(月) 午後6時～7時30分  
場所 川崎市労連会館4階会議室  
題材本 アーチャー著、永井淳訳『十二本の毒矢』(新潮文庫、400円)  
講師 酒井成美氏(「デルタ」同人)

- 10月の読書会は、『20世紀イギリス、短編選』(上)(岩波文庫)を題材に10月19日(月)に開催されました。

## 研究会

自治研センター主催の研究会が下記の要領で開催されます。この研究会も読書会と同様にどなたにも開かれています。テーマとしては主として時事的なものが選ばれます。この場合は、テキストはできるかぎり安価なものとなるよう配慮されています。関心の向きはふるって御参集ください。

記

日時 11月30日(月) 午後6時～7時30分  
場所 川崎市労連会館4階会議室  
テキスト 佐々木毅『いま政治になにが可能か』(中公新書、540円)  
司会 野上和裕(自治研センター専任研究員)

- 10月の研究会は、沼田真著『都市の生態学』(岩波新書)をとりあげ、去る10月26日(月)に開催されました。本ニュースの刊行が遅れましたので、ここに御報告致します。

## 英会話講座

すでにお知らせ致しましたように、姉妹都市・ボルチモアからの交換教員二氏(ハフマン氏およびモーガン氏)を講師に迎えて、10月から4講座が設置され、受講者募集がおこなわれました。自治研センター主催のこの英会話講座は、すでに5年目を迎えています。好評で今回も定員を越える受講申込者がありました。

授業は10月6日(火)に開始され、両講師の熱心な御指導のもとに受講者は楽しい英会話の学習に励んでおられます。

## 講演会

### ギリシャの文化と伝統

11月の定例講演会は、ギリシャ政府観光局の協力により「ギリシャの文化と伝統」(仮題)というテーマで開催される予定です。

私たちは世界史の授業において、いわゆる西洋古典古代文明の輝かしい担い手としてのギリシャについて学びましたが、現代ギリシャについてはほんのわずかな知識しかもっていません。このたびギリシャ政府観光局の御好意により、現代ギリシャを知る機会をもつことができることとなりました。御期待ください。

詳細は目下検討中ですので、確定しだいお知らせ致します。

## 書籍頒布

当センター主催の研究会・読書会で使用した題材本のうち、下記のものにいくらかの残部がでています。希望者には定価の1割引でお頒け致しますので、早目に電話(244-7610)にてお申し込みください。

記

- ① ギ・ゾルマン著、内田日出海・喜多見洋・塚原康博共訳『新<自由の時代>』(春秋社) ¥1,800
- ② 小関智弘著、『大森界限職人往来』(朝日文庫) ¥400
- ③ ジェフリー・アーチ著、永井淳訳『十二本の毒矢』(新潮文庫) ¥400
- ④ 高橋 紘著、『象徴天皇』(岩波新書) ¥480
- ⑤ 佐々木毅著、『いま政治になにが可能か』(中公新書) ¥540
- ⑥ 沼田 真著、『都市の生態学』(岩波新書) ¥480
- ⑦ 小野寺健編訳『20世紀イギリス短編選(上)』 ¥500
- ⑧ W・ヒューツバーグ著、『墮ちる天使』(早川書房) ¥520
- ⑨ 夏目漱石著、『文豪ナンセンス小説選』(河出書房) ¥480
- ⑩ 宮崎正弘著、『ユダヤにこだわる世界が見えなくなる』(二見書房) ¥750

## 回覧

# 自治研 センターニュース

1987. 11. 17  
No. 61  
発行責任者 深堀義孝  
川崎地方自治研究センター  
電話 044 (244) 7610

## 第2回 川崎市姉妹都市国際教育交流事業

今日の国際社会においては、一国中心主義は不可能であるということが、あらゆる分野でいわれています。教育もその例外ではありません。教育を国際的視野から見直していくことの重要性はいくら強調してもしすぎることはありません。

川崎市においては、姉妹都市との教育関係者の相互交流を通して友好と平和の増進がはかられてきましたが、21世紀にむけての教育や学校の改革のために、更に一層の相互理解と友好の増進をはかることが必要です。その観点から、川崎市ならびに各都市における教育の現状と課題を話し合いその解決策をみつけることを目的として自治研センターでは、川教組、市P協、校長会、川労協、川管組と共に以下の要領で、川崎市姉妹都市国際教育交流事業を実施いたします。

より多くの方の参加をお願いいたします。

記

### (1) 国際教育交流シンポジウム

日時 12月1日(月)及び2日(火)午後2時～6時

場所 川崎市総合教育センター

(溝口駅から東急バス高津営業所前下車または、田園都市線高津駅か二子新地駅下車徒歩)

パネラー リエカ市(ユーゴスラビア)

Ante Cerovac 氏(リエカ市教育研究所副所長)

Josip Sikic 氏(リエカ市教職員組合)

瀋陽市(中国)

薛桂仁氏(瀋陽市教育局長), 刘興烈氏(瀋陽市教育工会主席)

ボルチモア市(アメリカ合衆国)

ジョン・ホフマン氏(ボルチモア市交換教員)

ブランチ・モーガン Jr 氏( )

川崎市

伊藤和彦氏(教育センター所長), 川辺次郎氏(川教組副委員長)

テーマ 交流を通じて21世紀にむけての教育の改革と創造を

回覧

- ① 教育の現状と課題, 問題解決への試みについて
- ② 学校と父母・地域住民との連携, 家庭地域からの教育向上にむけての現状と課題について
- ③ 市民の生涯教育(学習)計画における現状と課題について
- ④ 子どもたちや親の声を通して, 教育と学校の未来を語り合う。  
とくに④のテーマをより深く考察するため, シンポジウムの二日間はパネラーと会場とを結んだ議論を行います。積極的な発言を歓迎いたします。

### (2) 姉妹都市のつどい

日時 12月5日(土) 午後2時～6時

場所 会館とどろき(市バスとどろきグランド入口下車)

内容 以下のプログラムに従ってすすめます。

(予定時刻) PM 2:00～	第1部 姉妹都市代表団と語ろう <リエカ> <ボルチモア> <瀋陽> 1. はじめの言葉 2. 代表団の紹介 3. 歓迎の言葉(大人, 子ども) 4. 姉妹都市の紹介(代表団の方にスライド等を使用して話してもらう) 5. 懇談 6. 交流(歌, 合奏, おどり等) 7. おわりの言葉
3:30	休けい 10分(移動時間も含む)
3:40	第2部 ふれあいタイム けやき 姉妹都市の歌を覚えよう 和室 中国の文字を書いてみよう 5:00 体育館 太極けんに挑戦してみよう フォークダンスをおどろう
5:30	ギャラリー (姉妹都市児童, 生徒の作品展示, 写真) ※川崎在住の人で写真を持っている人に借りて展示 ロビー 姉妹都市物産展を実施

## 講演会

自治研センターの11月講演会は, 10月のニュースでは, 「ギリシャの文化と伝統」(仮題)を予定しておりましたが, 都合により以下のように変更致します。

記

日時 11月24日(火) 午後3時～5時

場所 いさご会館第10会議室(3階)

テーマ 「株式の暴落と日本経済の行方」

講師 塚田史郎(共同通信社金融証券部次長)

- なお, 「ギリシャの文化と伝統」(仮題)は, 12月に改めて, ギリシャ政府観光局から講師を招いて行う予定です。



## 読書会・研究会

自治研センターでは、毎月、現代文学と時事問題に関する読書会を開催しております。共に関心のあるどなたにも開かれたものです。テキストは、いずれも親しみやすく、価格も手頃なものを選んでおります。また、当センターにお問い合わせ頂ければ、定価の一割引でお分け致します。

12月の現代文学を読む会は、10・11月に引き続いて現代イギリスの文学を取り上げます。今回は、主に小野寺健編訳『20世紀イギリス短編選 下』（岩波文庫）を取り上げますが、同編訳者『20世紀イギリス短編選 上』も随時参照致します。両方を読むと現代イギリス文学について一定の概観ができるようになりますと期待していいでしょう。多くの方が参加されるように希望致します。

### 記

日 時 12月14日(月) 午後6時～7時半

場 所 川崎市労連会館4階会議室

テキスト 小野寺健編訳『20世紀イギリス短編選』（岩波文庫）

時事問題についての読書会は、下記の通り、朝日新聞編集委員石川真澄氏の近著を取り上げます。この本は、60ものキー・ワードを手掛かりに、現代日本の政治体制（特に中曽根政権時代のそれ）の分析を試みたものです。そのキー・ワードというのは、「任期」「内閣支持率」「番記者」「花道」「辞意」など日常にお目に掛かる馴染み深いものですが、それに常識とは異なる角度から光を当てています。しかも、石川氏は、実に挑発的に議論を進めています。例えば、「労組依存」の項目には次の文句が書かれています。

「社会党の大きな欠陥の一つが「労組依存」にあるというのは党内外の常識である。……それで、労組「機関」への依存をやめて、組合員にじかに支持してもらえるようにできるかという、これは長年の習慣を変える話なので、至難のわざに違いない。とくに、実態から見て改善は社会党というより労組の側の問題である面が大きいので、労組の態度が改まらなければどうにもならない。

具体的には、労組がカネは出すが口は出さないという態度に徹することができるかという問題である。つまり、「身内」でない候補者や代議士のために、縁の下の力持ちになりきれかどうかの問題である。

難しそうに見えるが、実はこれは自民党と財界の関係では、曲がりなりにも実行されているマナーなのである。

もちろん、自民党と財界の間には深いところで癒着といわれる結び付きがある。また、しばしば汚職、ないし汚職まがいのことが起きる。しかし、財界からの大方の政治献金は直接のヒモはつけず、いわば総体として自民党を縛っている。また、財界人や普通の経営者は自ら政界に打って出ることをむしろ嫌うので、「財界依存」は個々に露骨には見えない仕組みになっている。労組も、そうしたマナーは見習ったほうがいい。

……」

このような指摘は、賛成するにしても反対するにしても、現在の政治体制に対する考察を深めてくれるものです。今の政治に関心のある向きは、ふるってご参集下さい。

### 記

日 時 12月21日(月) 午後6時～7時半

場 所 川崎市労連会館4階会議室

テキスト 石川真澄著『政治のことば 状況の奥を読む』（朝日新聞社）

- なお、11月の読書会・研究会のテキストは、既報通り、ジェフリー・アーチャー『十二本の毒矢』（新潮文庫）（16日月曜日）、佐々木毅『いま政治になにが可能か』（中公新書）（30日月曜日）です。時間と場所は12月と同じです。

# 自治研 センターニュース

1987. 12. 12

No. 6 2

発行責任者 深堀義孝

川崎地方自治研究センター

電話 044 (244) 7610

## 講演会

### ギリシャの伝統と文化

本ニュース第60号で予告しましたように、このたび在日ギリシャ政府観光局の協力により、最近のギリシャ政府の文化政策をテーマとする講演会を開催できるはこびとなりました。

ギリシャは古くて新しい国です。81年秋の総選挙において「全ギリシャ社会主義運動」(PASOK)が第一党の地位を得て新しい政権が成立したのち、社会・文化・政治の領域で新しい試みがおこなわれています。

今回の講演のテーマである「エルギン・マーブル」は、19世紀初頭にイギリスのエルギン卿によってもちだされた、アテネのパルテノン神殿を飾っていたフリーズを指すものです。このエルギン・マーブルはその後大英博物館に売却されましたが、ギリシャ新政権は83年10月にこの文化財の返還をイギリスに要求しましたが、拒否されました。

この文化財の国外流出の問題は、ひとつギリシャにかかわるものではなく、欧米の近代の文化史そのものの性格にかかわるものです。またわが国の近代文化史もこれと無関係ではありません。

今回の講演会をつうじて新しいギリシャの伝統と文化に触れることができるものと期待されます。

#### 記

日 時 12月17日(木) 午後3時～5時  
場 所 川崎市労連会館5階講堂  
テ ー マ ギリシャ —— 「エルギン・マーブル」  
講 師 エミー・デデス氏 (駐日ギリシャ政府観光局代表)

## 読書会

自治研センターでは、毎月、現代文学と時事問題に関する読書会を開催しております。共に関心のあるどなたにも開かれたものです。テキストは、いずれも親しみやすく、価格も手頃なものを選んでおります。また、当センターに問い合わせ頂ければ、定価の1割引でお分け致します。

12月の現代文学を読む会は、10月・11月に引き続いて現代イギリスの文学を取り上げます。今回は、主に小野寺健編訳『20世紀イギリス短編選(下)』(岩波文庫)を取り上げますが、同編訳者『20世紀イギリス短編選(上)』も随時参照致します。両方を読むと現代イギリス文学について一定の概観ができるようになるかと期待していいでしょう。多くの方が参加されるように希望致します。

#### 記

日 時 12月14日(月) 午後6時～7時半  
場 所 川崎市労連会館4階会議室  
テキスト 小野寺健編訳『20世紀イギリス短編選 (下)』(岩波文庫)  
講 師 酒井成実氏 (『デルタ』同人)

- なお、1月の読書会は、下記の要領で開催致します。

#### 記

日 時 88年1月18日(月) 午後6時～7時半  
場 所 川崎市労連会館4階会議室  
テキスト 八木義徳著『家族のいる風景』(福武書店、¥1,500)  
講 師 酒井成実氏 (『デルタ』同人)

- テキストは12月23日(水)までに自治研センターに預けて申し込みくだされば、新年早々1割引にてお届け致します。

## 研究会

すでに本ニュース前号でお知らせ致しました通り、12月定例研究会は下記の内容で開催されます。

#### 記

日 時 12月21日(月) 午後6時～7時半  
場 所 川崎市労連会館4階会議室

## 回 覧

テキスト 石川真澄著『政治のことば 状況の奥を読む』（朝日新聞社）

司 会 佐藤紘毅・自治研センター研究員

- この本は、60ものキーワードを手掛かりに、現代日本の政治体制（特に中曽根政権時代のそれ）の分析を試みたものです。そのキー・ワードというのは、「任期」「内閣支持率」「番記者」「花道」「辞意」など日常にお目に掛かる馴染み深いものですが、それに常識とは異なる角度から光を当てています。しかも、石川氏は、実に挑発的に議論を進めています。例えば、「労組依存」の項目には次の文句が書かれています。

「社会党の大きな欠陥の一つが「労組依存」にあるというのは党内外の常識である。……それで、労組「機関」への依存をやめて、組合員にじかに支持してもらえるようにできるかという、これは長年の習慣を変える話なので、至難のわざに違いない。とくに、実態から見て改善は社会党というより労組の側の問題である面が大きいので、労組の態度が改まらなければどうにもならない。

具体的には、労組がカネは出すが口は出さないという態度に徹することができるかという問題である。つまり、「身内」でない候補者や代議士のために、縁の下の力持ちになりきれかどうかの問題である。

難しそうに見えるが、実はこれは自民党と財界の関係では、曲がりなりにも実行されているマナーなのである。

もちろん、自民党と財界の間には深いところで癒着といわれる結びつきがある。また、しばしば汚職、ないし汚職まがいのことが起きる。しかし、財界からの大方の政治献金は直接のヒモはつけず、いわば総体として自民党を縛っている。また、財界人や普通の経営者は自ら政界に打って出ることをむしろ嫌うので、「財界依存」は個々に露骨には見えない仕組みになっている。労組も、そうしたマナーは見習ったほうがいい。……」

このような指摘は、賛成するにしても反対するにしても、現在の政治体制に対する考察を深めてくれるものです。今の政治に関心のある向きは、ふるってご参集下さい。

- なお新年1月の定例研究会は下記の通り開催の予定です。

#### 記

日 時 88年1月25日(月) 午後6時～7時半

場 所 川崎市労連会館4階会議室

テキスト 和田春樹著『私の見たペレストロイカ』（岩波新書）¥530

司 会 野上和裕・自治研センター研究員

- テキストを御希望の方は、12月25日(金)までに電話にて自治研センター（244-7610）にお申し込みください。1割引にてお届け致します。

#### 書籍頒布

当センター主催の研究会・読書会で使用した題材本のうち、下記のものにいくらかの残部がでています。希望者には定価の1割引でお分け致しますので、早目に電話(244-7610)にてお申し込みください。

#### 記

- ① ギ・ソルマン著、内田日出海・喜多見洋・塚原康博共訳『新<自由の時代>』（春秋社）¥1,800
- ② 小関智弘著、『大森界限職人往来』（朝日文庫）¥400
- ③ ジェフリー・アーチ著、永井淳訳『十二本の毒矢』（新潮文庫）¥400
- ④ 高橋 紘著、『象徴天皇』（岩波新書）¥480
- ⑤ 佐々木毅著、『いま政治になにが可能か』（中公新書）¥540
- ⑥ 沼田 真著、『都市の生態学』（岩波新書）¥480
- ⑦ 小野寺健編訳、『20世紀イギリス短編選(上)』¥500
- ⑧ W・ヒョーツバーグ著、『墮ちる天使』（早川書房）¥520
- ⑨ 夏目漱石著、『文豪ナンセンス小説選』（河出書房）¥480
- ⑩ 宮崎正弘著、『ユダヤにこだわる世界が見えなくなる』（二見書房）¥750